

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	一般社団法人Be.カラフル スポーツコミュニケーションスクールカラフル富山けやき通り校			
○保護者評価実施期間	2025年 1月 29日		～	2025年 2月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	51人	(回答者数)	30人
○従業員評価実施期間	2025年 1月 29日		～	2025年 2月 15日
○従業員評価有効回答数	(対象者数)	7人	(回答者数)	7人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 5日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	運動指導において ①集団と個別の両方をバランスよく提供できる ②子どもの発達段階や特性に応じた指導ができる ③運動を通じたコミュニケーション力・社会性の向上に強みがある	集団指導では ・社会性・協調性の向上(順番を待つ、仲間と協力するなど) ・ゲーム形式で楽しみながら運動スキルを伸ばす ・ルール理解や集団行動の習慣化を促進 ・目標を共有し、成功体験を積み重ねて自己肯定感を高める 個別指導では ・子どもの発達段階や特性に合わせたオーダーメイドの指導 ・苦手な動きや課題に対してピンポイントでアプローチ ・自己ペースで取り組める環境を提供し、自信を育む ・個別目標を設定し、小さな成功を積み重ねる	活動の様子を保護者の方に直接見ていただいたり動画を送ったりするなど保護者との共有を進める。 またICTを活用した療育プログラムを増やすなど、社会の潮流に合ったプログラムを展開する。
2	子どもたちに最適な支援を提供するために、スタッフの研修を重視 法人内外での研修に積極的に参加	1.専門性の向上 発達支援・運動指導・学習支援・SSTなどの知識と技術を深め、質の高い支援を提供する 2.支援の一貫性と質の向上 どのスタッフが対応しても安定した支援を行う 3.保護者との連携強化 ご家庭のニーズを的確に把握し、適切なアドバイスやサポートができるようにする	研修を通じて、スタッフが常に最新の知識とスキルを学び、子どもたち一人ひとりに寄り添った支援ができるよう努める。
3	ICT導入とAI活用による業務効率化への取り組み	1. AIセラピストを活用した個別支援計画の作成 子どもの特性や支援履歴をAIが分析し、最適な支援計画を提案 スタッフの負担を軽減し、より質の高い支援の実現 エビデンスに基づいたアセスメント、客観的な評価で、支援の効果を可視化 2. ICTの活用による業務効率化 クラウド型記録システム導入で、支援記録・報告書作成の時間を短縮 オンライン研修や情報共有ツールを活用し、スタッフ間の連携 3. スタッフの働きやすさ向上 業務の効率化により、支援の質向上とスタッフの負担軽減を両立	ウェルビーイングを目指す法人として、最先端技術を活用しながら、より良い支援と働きやすい環境づくりに取り組む。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	雨の日の浸水の心配。換気が適切にされているのか。	施設の入出口の一部がシャッターのため雨の日に浸水してることが考えられるが、借書以来浸水したことは一度もない。	シャッターに面している外は緩やかな傾斜になっているため水が浸水してくる心配はしていない。豪雨で逆流などが考えられる場合は避難経路に沿って避難をする。換気ではスタジアムの構内を施設内に置き周知する。また、保護者の方にもスタジアムに入っただき普段のような環境で支援しているのか共有する場面を作る。
2	親子参加型のイベントや交流会が少ない。	イベントや交流会の計画はたてているが、保護者の休日に合わせての週末開催となると、職員の時間外勤務となり、実施できる回数は限られる。	週末のイベントや交流会は職員全員での運営が難しいため、担当者を決め、保護者や子どもの意向を踏まえ、計画を立てる。
3	職員の働く環境について 1. 人材不足と採用の課題 2. 書類業務の負担増大 3. 人材育成と定着の課題 4. 支援の質向上と環境整備	以下の要因により職員の負担増加が懸念される。 1. 求人応募が少なく、特に専門人材の確保が困難 2. 書類作成業務が煩雑で、報酬改訂・運営改訂に伴い負担が増加。 3. 研修機会の不足、キャリアパスの不明確さにより定着率が低下。 4. 利用者のニーズが多様化し、個別支援の負担が増大。	ジョブ型雇用の導入、ICT活用による業務効率化、行政と連携した研修・採用支援の活用。 ・書類のデジタル化、AI活用による業務簡素化、行政支援ツールの活用。 ・外部研修の活用、キャリアパスの明確化、行政による研修プログラムの拡充。 ・ICT・AI活用による個別支援計画の最適化、適正な人員配置と報酬設定の見直し。 ・持続可能な事業運営のため、行政との連携を強化し、人材確保・業務効率化を推進する。